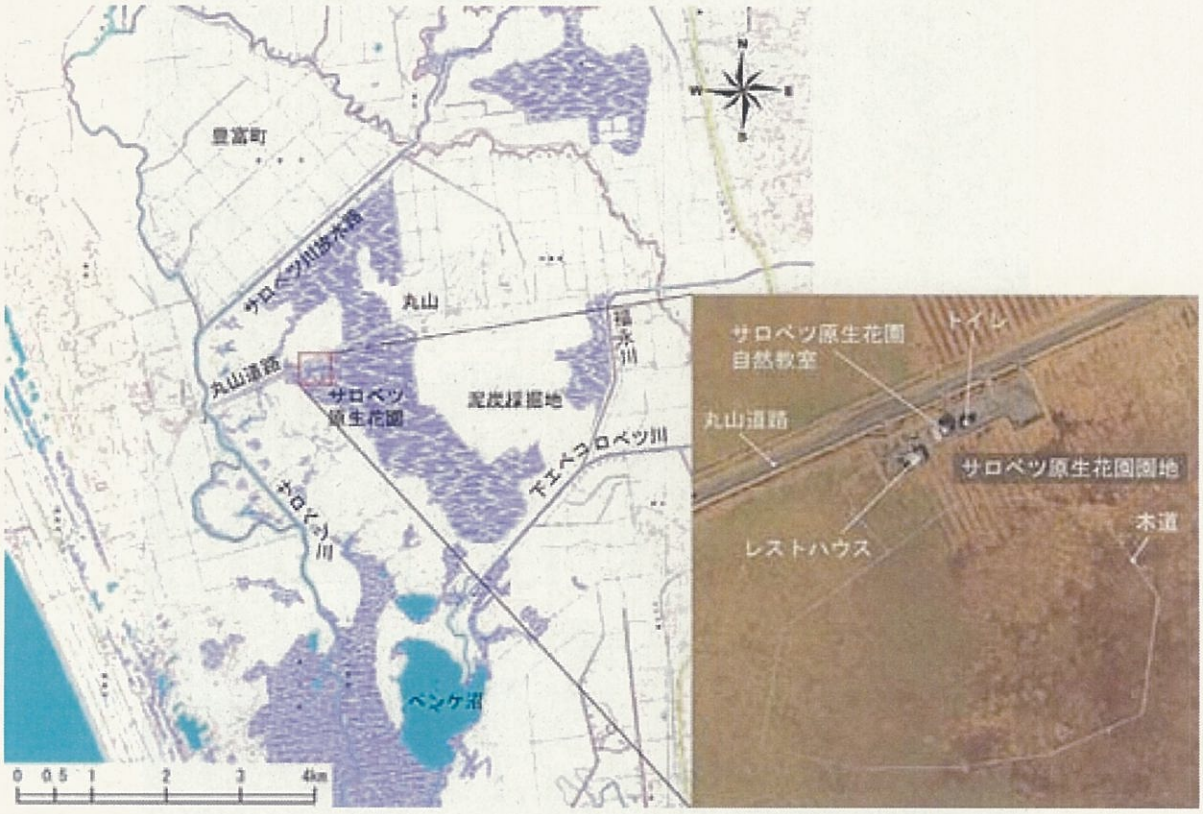
上サロベツ自然再生協議会　第20回再生技術部会

サロベツ原生花園跡地の植生回復試験について

平成27年3月5日

環境省北海道地方環境事務所

サロベツ原生花園跡地の植生回復試験について

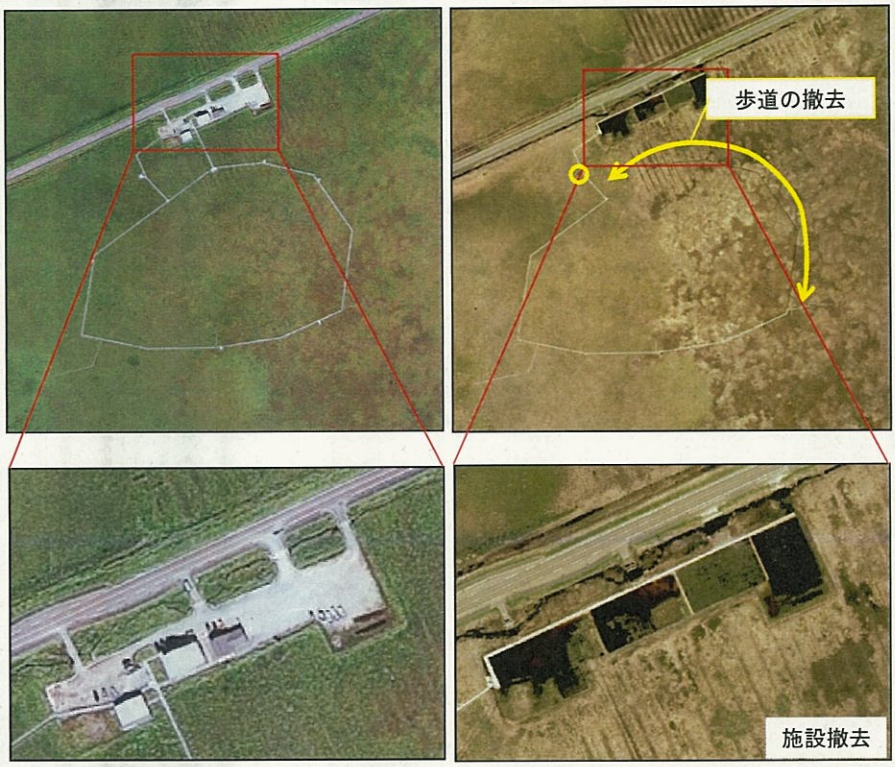


サロベツ原生花園跡地における取り組みの概要

施設撤去後の原状回復を目的として植生回復試験を実施。

平成22年12月～平成23年6月にかけて、施設の撤去および表土の掘削、泥炭の一部投入等の再生工事を実施。

現在はその効果を確認するためのモニタリングを継続中。



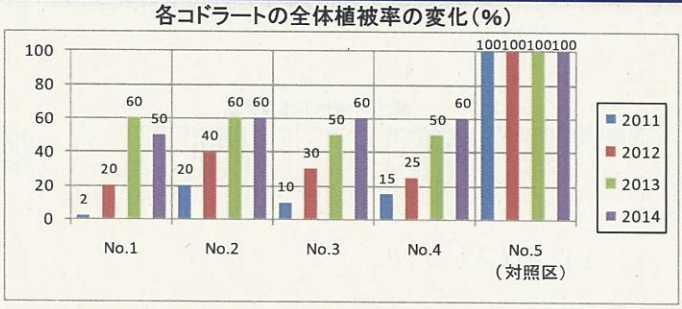
2006年10月30日撮影　　2013年5月26日撮影

サロベツ原生花園跡地周辺の空中写真

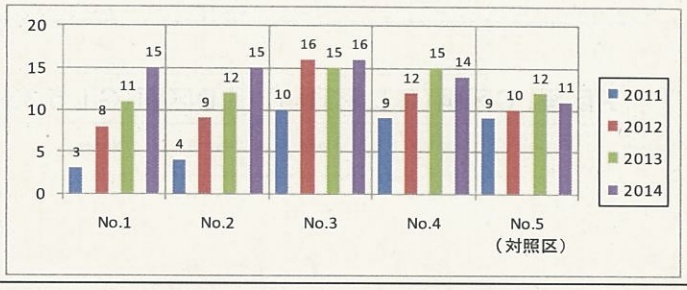
歩道設置跡地　調査地点位置図

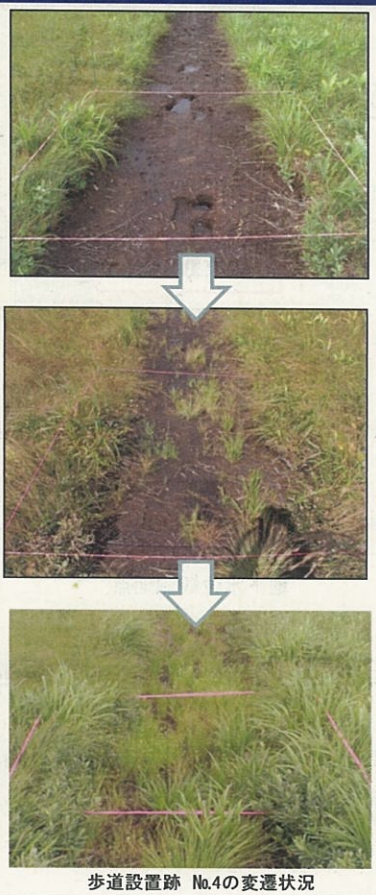
歩道設置跡地におけるモニタリング結果

各コドラートの全体植被率の変化（%）



各コドラートの種数の変化（種）





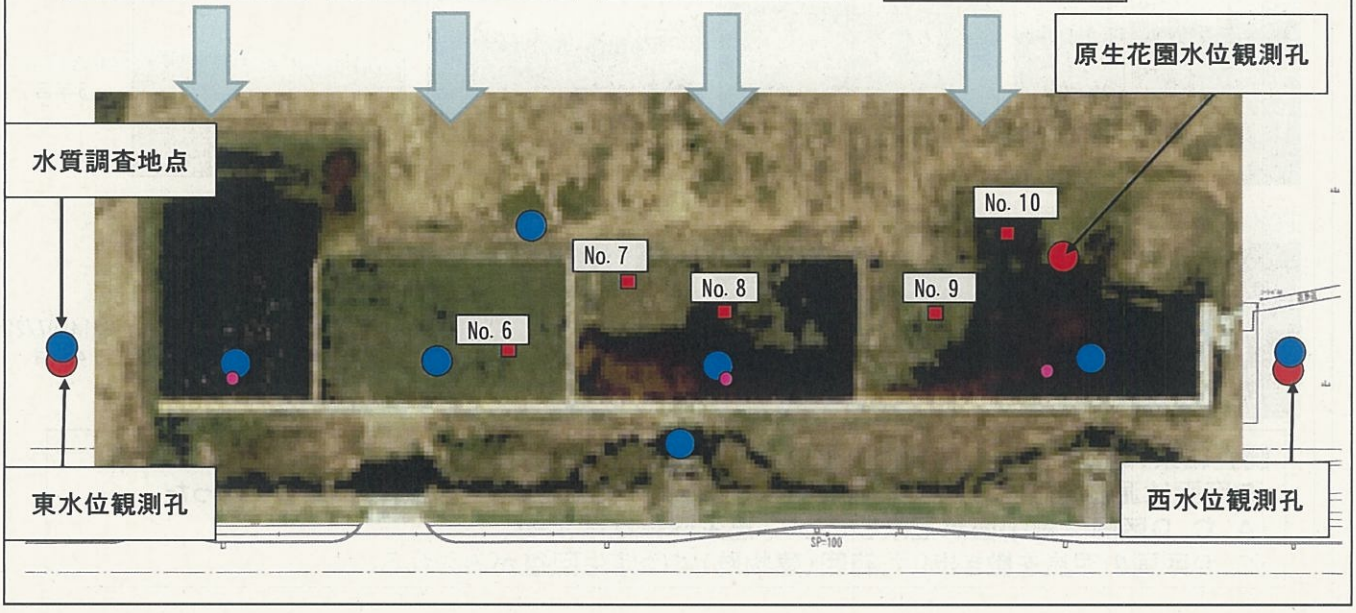
歩道設置跡 №4の変遷状況

- 歩道撤去から3年が経過し、植生回復が順調に進んでいる。外来種の侵入も確認されていない。
- 侵入種は、イ、ハクサンスゲ、ヌマガヤ、ミカヅキグサの他、ヤチヤナギ、モウセンゴケ、ツルコケモモなどの高層湿原評価指標種も出現している。
- 平成26年度は対照区を除く全ての地点でミズゴケ類を確認。

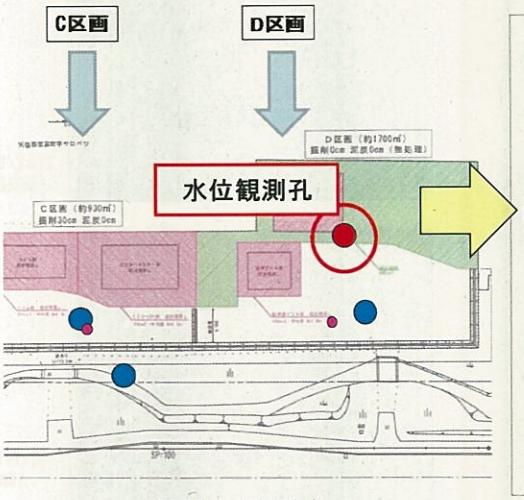
サロベツ原生花園地跡地　調査地点位置図

A区画	B区画	C区画	D区画
表土掘削20cm 泥炭なし	表土掘削50cm 泥炭30cm	表土掘削30cm 建物跡に 泥炭を撒き出し	表土掘削なし 一部植生残置 建物跡に 泥炭を撒き出し

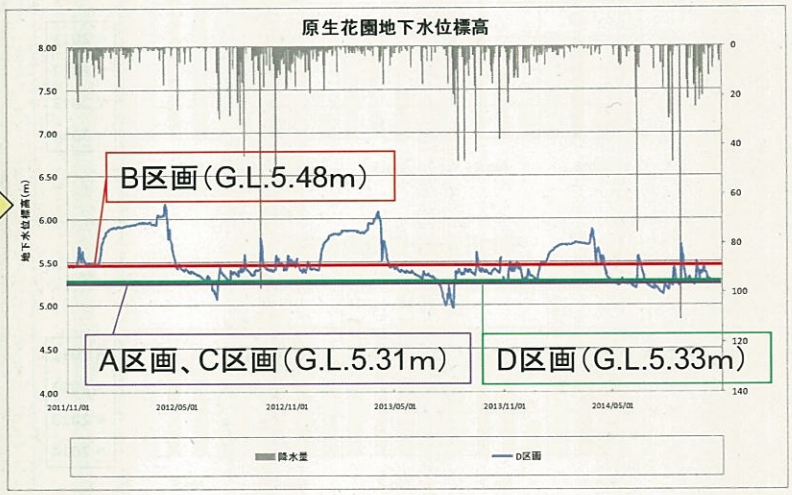
凡例
- 水位計
- 水質調査
- 水位標柱



サロベツ原生花園地における地下水位の変化



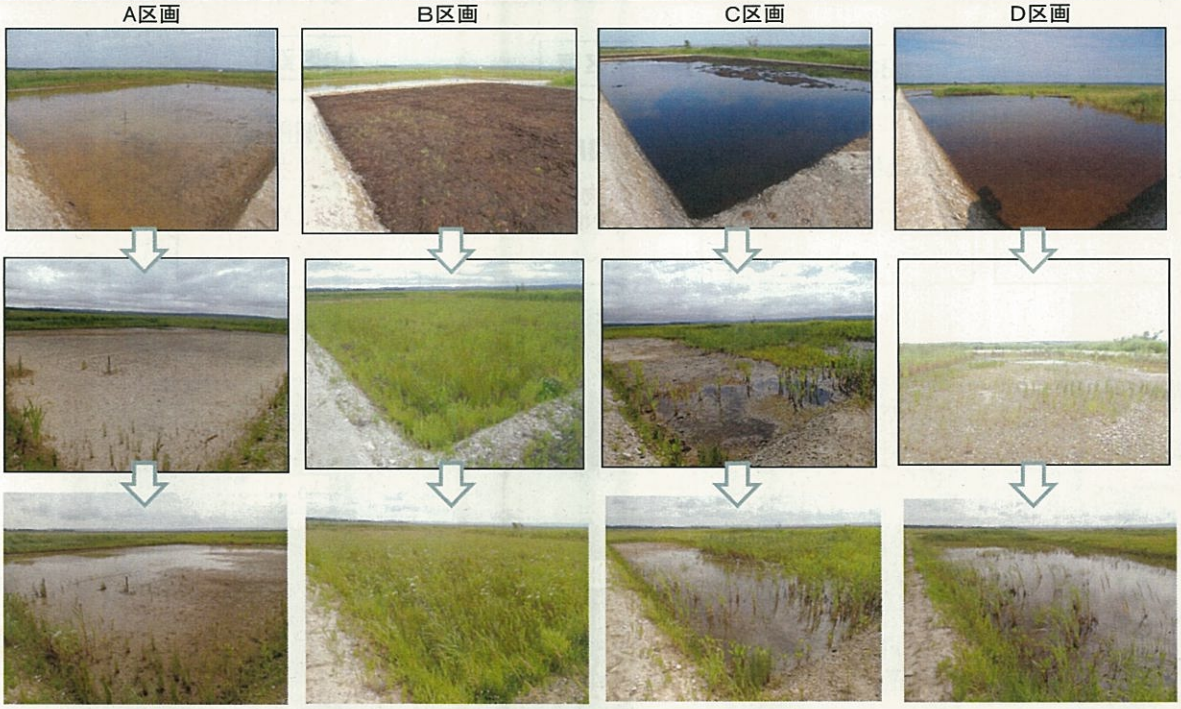
地下水位観測地点



・B区画のGL（標高）は、他の区画より約20cm高く、夏期の冠水頻度が低い。

・A地区、C地区、D地区のGL（標高）は、渇水時に露出することもあるが、冠水期間が長い。

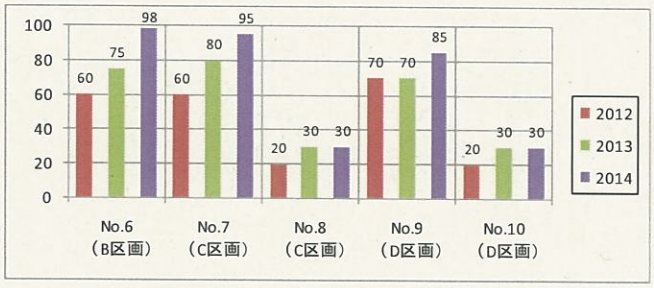
サロベツ原生花園地　植生の変遷



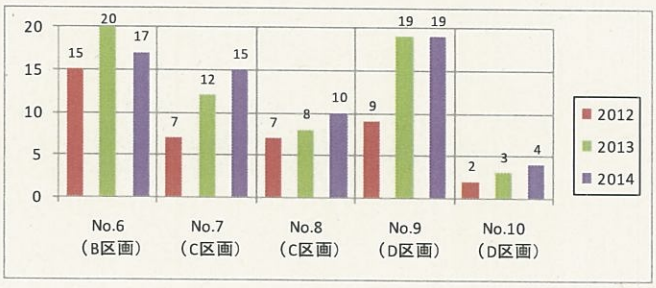
調査結果：昨年度までの傾向に変化はない。
・B区画は泥炭を撤き出し、地表面が高くて冠水がみられない。植生回復が顕著であった。
・A、C、D区画は掘削面が冠水しており、植生回復は限定的。
・C、D区画の泥炭を撤き出した範囲（建物跡）では植生回復がみられる。

サロベツ原生花園地　植生コドラート調査結果

各コドラートの全体植被率の変化（%）



各コドラートの種数の変化（種）



各コドラートの優占種（一位、二位）の変化

No.	平成24年	平成26年	環境
No.6（B区画）	イ、クサヨシ	イ、クサヨシ	やや乾燥
No.7（C区画）	イ、タウコギ	イ、クサヨシ	やや乾燥
No.8（C区画）	ガマ、タウコギ	ガマ、アブラガヤ	冠水
No.9（D区画）	タウコギ、イ	イ、ガマ	湿性
No.10（D区画）	ハリコウガイゼキショウ、ヨシ	ヨシ、ハリコウガイゼキショウ	冠水

- すべてのコドラートで植被率、種数ともに増加傾向にあり、植生が回復しつつある。
- いずれも、イ、ヨシ、クサヨシ、ガマなどが優占する抽水植物群落となっている。
- 冠水しているNo.8、No.10では植生回復が緩やかである。
- No,6、No.7、No.9は比較的乾燥した地盤が保たれ、植物の回復が進んでいる。
- No,6、No.7では外来植物のアメリカセンダングサ・エゾノギシギシの生育を少数確認した。冠水しにくい条件下にあることが外来植物の侵入の一因と考えられる。
- No.9ではガマが優占しており、No.6、7に比べ湿性環境にある。外来種は侵入せず、湿性植物が順調に生育している。

サロベツ原生花園地　調査地点の変遷写真

No.6（B区画内）の変遷

No.9（D区画内）の変遷

No.10（D区画内）の変遷

2012/09/07
2年目

⇩　⇩　⇩

2014/07/22
4年目

ほぼ植生回復している。
やや乾燥しており、外来植物の生育を確認した。

ほぼ植生回復している。
No.6に比較し湿性環境であり、外来植物の生育はない。

冠水頻度が高いため、回復は緩やか。
ヨシが優占している。